

令和3年7月31日発行

静岡県

図書館協会

会報 No.77



読書っ子育て事業 藤枝市立図書館

編集・発行 静岡県図書館協会

静岡市駿河区谷田53番1号
静岡県立中央図書館内

図書館の新たな日常を目指して

静岡県図書館協会会長
静岡県立中央図書館長

赤石 達彦



4月1日から新たに静岡県立中央図書館長に就任される予定であった篠宮晋士氏の急逝に伴い、5月1日付で図書館長を拝命するとともに、静岡県図書館協会会長を務めさせていただくこととなりました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

令和2年の春先から始まった我が国における新型コロナウイルスの感染拡大は、これまで当たり前のように過ごしてきた日常が、いかに脆弱で危ういものであるかということを私たちに気づかせることとなりました。

図書館の世界においても、昨年の緊急事態宣言発令時には、本県のみならず全国各地の図書館が臨時休館するという、これまでに経験したことがないような対応を迫られることとなりました。再開館した後も、計画していた様々な講演会や研修会などのイベントが中止や延期に追い込まれました。これまで、長年にわたり図書館職員や読書活動に携わってこられた方々が生み出し、育て上げ、積み重ねてきた多くのかけがえない活動やサービスが、ウイルスという目に見えない抗いがたい存在により瞬間にそのありようを変えざるを得ない、辛くて困難な時期を迎えていると感じて

います。

一方で、“こうした時期だからこそ”とも言える新たな可能性も生まれてきています。従来は、会場に足を運び、人と人が顔と顔を合わせて行うことが当たり前だった講演会や研修会が、動画の配信やオンラインでの開催など、最新のIT技術を活用して行われるようになり、これまで以上に多くの方々が時間や空間の枠を超えて視聴されたり参加されたりという効果やメリットも確認されています。その意味では、これまで私たちが“当たり前”と考えてきたことを新たな視点から見直す良い機会なのかもしれません。

新型コロナウイルスの感染収束については、まだまだ先が見通せません。しかし、今のうちから、図書館協会の会員の皆様と力を合わせ、情報を共有し、知恵を出し合いながら、それぞれの地域の、ひいては、全ての県民の皆様の「学びを支え、知的好奇心に応える」という図書館の役割や使命をこれまで以上に発揮できる、そうしたアフターコロナの“新たな図書館の日常”を創り出せればと考えておりますので、お力添えをいただきますようお願いいたします。

子供の読書活動優秀実践図書館・団体 文部科学大臣表彰受賞 藤枝市立図書館／朗読グループかざぐるま（焼津市）

文部科学省では、子供が積極的に読書活動を行う意欲を高める活動を推進するため、特色ある優れた実践を行っている団体に対し大臣表彰を行っています。令和3年度は、図書館の部で藤枝市立図書館が、団体（個人）の部で「朗読グループかざぐるま」が文部科学大臣表彰を受賞しました。

『みんなの「読みたい」に応えたい』 藤枝市立図書館

藤枝市立図書館は、「藤枝市子ども読書活動推進計画（第四次）」（令和3年3月策定）に基づき、家庭・学校・地域が一体となった子供の読書環境の向上に取り組んでいます。

乳幼児期から切れ目のない読書環境を提供していくに加え、誰もが気兼ねなく図書館を利用できるよう、ユニバーサルデザイン化を推進することで、一人ひとりの「読みたい」という気持ちの醸成を図っています。

現在、展開している施策の中で特徴的な事業を2点紹介します。

【読書っ子育て事業】

希望する幼稚園、保育所、子ども園等に対し、月1回、図書課職員が巡回して100冊の絵本を貸し出します。本の選書は図書館の職員が行い、名作と呼ばれる作品や時節に合ったものを提供しています。

配本された本の使い方は、基本的には各施設にお任せしています。コンテナに入ったまま使ったり、施設によってはミニ図書コーナーのような場所を作ったりしているところもあります。

それぞれの施設の先生方からは

- ・毎月、絵本が更新されるので、子ども達が飽きることなく本を読んでいる。
- ・図書館が選書をしているという安心感から、自信を持って本を紹介できる。

などの声が寄せられています。多忙な先生方に代わって、専門的な知識を持った司書が選んだ本を、毎月自動的に配置する点が、この事業のポイントです。

【そらいろ図書館】

本市の中央館である駅南図書館の休館日を開放し、発達に課題がある子供たちが気兼ねなく施設を利用することを目的として実施しています。

「そらいろ」の意味は、いつも青空ではなく曇ったり雨が降ったりと様々に色を変える空に、子ども達のそれぞれの特性をなぞらえて、一人ひとりの個性を尊重したいという思いからつけたものです。

最初の30分は自由に館内で過ごしてもらい、その後、職員による読み聞かせなどを行い、1時間ほどの図書館体験を提供しています。

好きな本を手に取り没頭する子もいれば、中には走り回ったり、寝そべってしまったりする子もありますが、最初はおはなし会に参加できなかった子どもが少しずつ興味を示したり、好きな本のテーマが徐々に広がっていく様子をみていると、この事業は焦らず継続していくことに意義があると考えています。

子供の読書環境の整備は、ハード面において一定の程度進んできたと感じていますが、今後は、子供たちの心に寄り添い、実際の読書活動に結び付けていくようなソフト的な事業の展開を課題として、図書館の運営に取り組んでいきたいと思っています。

（藤枝市教育部図書課 課長 杉本 守）



そらいろ図書館 藤枝市立図書館

「本って楽しいな」そんな想いを届けたい 朗読グループかざぐるま（焼津市）

私達は昭和52年、焼津市立図書館ボランティアとして活動を始めました。会員は現在11名で、毎週土曜日に図書館へ来る子供達に向けて、絵本の読み聞かせや紙芝居、エプロンシアター、手遊び等を行っています。また、春と秋には「お話しフェスタ」、夏は「こわいお話し会」など、図書館を中心に活動しています。

40年間途切れることなく焼津図書館で行われていた「こどものつどい」ですが、私達も人形劇を上演していた行事が、令和2年度はコロナ禍のため中止となってしまったのは本当に残念です。

他に郷土にゆかりの作家、小泉八雲の作品の朗読公演なども定期的に行い、近隣の小学校や公民館等にも出張朗読公演を行うなど幅広く活動しています。

子供達の笑顔にパワーをもらい、これからもメン

バー一同楽しく活動を続けていきたいと思っています。
（朗読グループかざぐるま 代表 西岡いつ子）



朗読グループかざぐるま（焼津市）

新設図書館紹介 官民共創型図書交流館 牧之原市立図書交流館

令和3年4月17日牧之原市立図書交流館（愛称「いこっと」）がオープンしました。本施設は、街中の商業施設が撤退し空き家となることになったため、市の公共図書館と民間のテナントを共存させ、市民にとっての「小さな街」をつくる官民共創型のプロジェクトとして取り組んだものです。目標は、愛称「いこっと」のとおり、これまで図書館を訪れることのなかった人も、ふらっと気ままに訪れていただけるそんな空間になることです。

館内には、心地よいBGMが流れ、さまざまな世代の方たちが訪れます。そして、ホテルのラウンジをイメージした交流談話エリアでは、ドリンクを飲みながら友達との話を楽しんでいる女性や、ソファで寛ぐ男性がいて、読み聞かせコーナーにはお子さんに本を読んであげているお母さんの姿があります。一方で、静かな空間の学習室では、学生さんが一生懸命勉強しています。施設完成から開館まで僅か2ヶ月とタイトなスケジュールの中、約500名の市民の皆さんに、開館準備サポーターとして本のクリー

ニングや配架を手伝って頂き、中学生の皆さんは、手作り記念バッチを製作してくれました。開館後も、来館の度に「今日は沢山来てくれていますね。」と気にしてくれます。この方々は市民が創り育てるこの図書交流館の財産だと思います。小さな図書館ですが県立図書館や周辺図書館の皆様と連携させて頂き、頑張ってまいりたいと思います。ぜひご来館ください。

（牧之原市立図書交流館 館長 杉村明彦）



牧之原市立図書交流館

令和3年度 静岡県図書館協会館長研修会の報告

今年度の館長研修会は新型コロナウイルス感染防止のため、オンライン開催となりました。「図書館の現状と課題」と題して筑波大学図書館情報メディア系 池内淳准教授に御講演いただきました。

昨年、コロナ禍により図書館が臨時休館せざるを得なくなったとき、オンラインでのサービスが行えなかったことからわかるように、図書館は改めてデジタル・ネットワーク化の必要性に直面しています。日本の自治体約1,700のうち、2021年1月に電子書籍貸出サービスを実施しているのは143自治体のみです。公共図書館は、地域の範囲が広く来館が難しい方や障害のある方など、デジタル化してサービスを行うべきであった人達に対応していませんでした。

電子書籍の購入件数やTwitterの投稿数は就寝前の23時頃が最も多くなります。デジタルサービスを行うのであれば、デジタルに接する人が最も多いこの時間のことを考えなくてはなりません。図書館の開館時間は限られているので、サービス対象である住民が情報を得る時間を考えるとオンラインによるサービスが必要になってきます。

デジタル・ネットワーク化にあたり、図書館のコア・コンピタンス（中核となる強み）を再定義し、核となるサービスは安易に外注せず、自前で提供す

る必要があります。図書館評価の中に、デジタル化に対応した指標を盛り込むなど、評価される仕組みを作っていかななくてはなりません。また、館長は短い在任期間の中で、図書館を正しい方向に導くためには法令やデータ分析に基づいて適切な指針を示し、優先順位の低い業務を整理し、職員を説得・誘導していくことが必要であるとお話してくださいました。

受講者からは「興味深いエビデンスをご紹介いただき、大変参考になりました。」「便利・簡単を基本としなければ利用してもらえないと感じた。」等の感想が寄せられるなど、大変有意義な研修となりました。



オンライン開催

令和3年度 総会報告

令和3年度の静岡県図書館協会総会は4月20日にオンライン（Zoom）で開催され、下記の議案が承認されました。

- 第1号議案 令和2年度事業報告案
第2号議案 令和2年度決算報告案・会計監査報告
第3号議案 静岡社会健康医学大学院大学附属図書館の入会
第4号議案 会則の改正案

令和3年度 静岡県図書館協会役員

理事長 三科 守（静岡県立中央図書館）
（4月30日まで）
副理事長 赤石 達彦（静岡県立中央図書館）
（5月1日から）
副会長 川東 俊夫（静岡市立中央図書館）
副会長 高瀬 理子（浜松市立中央図書館）
尾和富美代（沼津市立図書館）
青山 文彦（御殿場市立図書館）
鈴木都実世（磐田市立中央図書館）
田代 光宏（小山町立図書館）
坂本 健吉（静岡大学附属図書館）
杉村 明彦（牧之原市立図書館交流館）
大久保紀彦（常葉大学附属図書館（水落））
※加盟館名簿順

<令和3年度事業計画>

会議・大会
理事会 第1回（4/20）
第2回（9月初旬・文書による決裁）
第3回（2/18）
総会兼館長会（4/20）
相互貸借担当者会議（4/27）
静岡県図書館大会（11/8）

研修

図書館基礎研修（4/16）
おうだんくん基礎研修
（5月から3月 オンデマンド配信）
レファレンス基礎研修（5/14・5/20・5/27・6/2）
図書館広報研修（12/1）
大学・専門図書館研修（6/17）
資料保存研修（9/15）
児童・青少年サービス研修（10/6）
レファレンス応用研修（10/14・10/20）
図書館サービス研修（1/14）
図書館運営研修（7/2）
図書館情報交換会（9/24・10/28・11/12・12/1）

専門委員会

調査研究委員会 年4回開催
図書館大会運営委員会 年5回開催

第2回理事会報告

第2回理事会は5月13日～21日に書面により開催され、下記の議案が承認されました。

- 第1号議案 事業計画の変更
静岡県図書館大会（11/8～10）オンライン開催
理事会 第2回（5/13～21・文書による決裁）
第3回（9月初旬・文書による決裁）
第4回（2/18）

第2号議案 令和3年度静岡県図書館協会図書館大会基金使用計画案
図書館大会基金は令和5年度第30回静岡県図書館大会において講師招聘費用として使用する。

令和3年度 第28回静岡県図書館大会

会場 オンライン開催

日程 11月8日（月）10:00～12:00 「コロナ禍の図書館と今後の図書館（仮）」
情勢報告・講演 日本図書館協会 理事長 植松貞夫氏
県内図書館事例報告
14:00～16:00 第1分科会 図書館サービス
9日（火）10:00～12:00 第2分科会 子どもの読書活動
14:00～16:00 第3分科会 乳幼児・児童・YAに対するサービス
10日（水）15:00～17:00 第4分科会 学校図書館
問い合わせ先 静岡県立中央図書館 企画振興課振興班 TEL 054-262-1246
※静岡県図書館協会加盟館及び学校図書館へ申込方法を8月中旬にお知らせします。
※参加費は無料です。

公立図書館等職員研修のお知らせ

今後開催する研修の一部です。ぜひご参加ください。

図書館 広報研修	12月1日（水）	島田市立金谷公民館 （みんくる内）	講義「図書館における効果的な広報の発想（仮）」 講師：島田市立金谷公民館長 孕石晃氏
児童・青少年 サービス研修	10月6日（水）	県立中央図書館	講義・演習「ブックトークの理論と技術（仮）」 講師：三芳町立中央図書館長 代田知子氏
図書館 サービス研修	1月14日（金）	県立中央図書館	演習：図書館サービスと著作権（仮） 講師：国立国会図書館調査及び立法考査局憲法課長 南亮一氏